

# 展 示

## 特別展 堺復興—元禄の堺大絵図を読み解く—

平成27年10月27日(火)～12月13日(日)

慶長20(1615)年4月28日大坂夏の陣の前哨戦で豊臣方が放った火で、栄華を極めた中世都市堺は焼け野原になりました。そして幕府による堺の町割りは6月18日から始まります(金地院崇伝の『本光国師日記』)。堺が復興を遂げた姿は、元禄2(1689)年に堺奉行によって作られ、巨大な都市図として知られる「元禄二年堺大絵図」に見ることができます。近世都市に生まれ変わった堺は、栄華を極めた中世よりもひとまわり大きな都市になりました。

この特別展では、現在、国立歴史民俗博物館が所蔵する元禄の堺大絵図を堺で初めて借用・公開し、その姿を読み解きました。この絵図は江戸時代の堺の町を縮尺約300分の1で描いた巨大な地図です。あわせて大徳寺龍光院から新たに発見された寺院の復興工事資料等をもとに復興していった堺の歴史をご紹介します。

平成27(2015)年は、堺復興の起工から400年にあたりました。本展を通じて中世に比べて情報が少なく不明な部分が多かった近世都市堺の新しい魅力を感じていただきました。(矢内)

### 【展示構成と主な展示品】

- ・1615年 堺炎上と復興  
「堺環濠都市遺跡出土資料」(堺市文化財課蔵)  
「長谷川藤広黒印状」(当館蔵)
- ・復興していく都市・堺—復興は寺町から—  
「欠伸稿」(龍光院蔵)  
「大通庵御作事日記」(龍光院蔵)  
「鰐口」(顕本寺蔵)
- ・近世都市堺の誕生—絵画と文学—  
「日本永代蔵」・「世間胸算用」(大阪府立大学蔵)
- ・元禄の堺大絵図を読み解く  
—都市復興の視点から—  
「元禄堺大絵図」(国立歴史民俗博物館蔵)

関連行事として以下の催しを実施しました。

### A 記念講演会

日時：11月29日(日) 午後2時～午後3時30分

演題：絵画資料から歴史をひもとく

—洛中洛外図を中心に—

講師：国立歴史民俗博物館教授 小島道裕氏

会場：博物館ホール

### B 学芸講座

日時：①11月22日(日) 午後2時～3時30分

演題：中世都市から近世都市へ

—堺環濠都市遺跡の発掘調査成果から—

講師：当館学芸員 續伸一郎

日時：②12月6日(日)

演題：堺と京都—中近世の戦災復興—

講師：当館学芸員 矢内一磨

会場：博物館ホール

### C 展示品解説

日時：11月1日(日)・21日(土)

共に午後2時～2時30分

講師：当館学芸員

特別展 SAKAI RECONSTRUCTION: Reading and Understanding the Edo Sakai Large Map

# 堺復興

元禄の堺大絵図を読み解く

開館時間：午前9時30分～午後5時15分(入館は午後4時30分まで)  
休 日：月曜日(祝日の場合は開館)・年末年始  
観覧料：無料  
【特別展観覧料】  
一般(20歳以上49歳以下)：堺市大学生300円(210円)、小学生300円(200円)  
※特別展観覧料で常設展(基本展)も観覧いただけます。  
※17歳以下は200円以上の団体料金。  
※堺市市民は、在籍の小学生以上は無料。  
※60歳以上の入館料、および障壁のある方は無料(要証明書)

平成27年 10月27日(火)～12月13日(日)

堺市博物館 SAKAI CITY MUSEUM

百舌鳥・古市古墳群

企画展 更紗メイド・イン・ジャパン —異国趣味の染色デザイン—

平成27年4月25日（土）～5月24日（日）

木綿に鮮やかな文様が染め出されたインド更紗。大航海時代にもたらされた美しい異国の布は、日本の人々の心を捉え、魅了しました。

江戸時代には日本でもインド更紗を模倣して多色染が行われました。当初は手描きでしたが、やがて型紙を使って量産されるようになり、江戸後期には日本製の型染の更紗、いわゆる「和更紗」が風呂敷や布団、間着（あいぎ）などに用いられ、庶民の生活を彩りました。

堺でも更紗の模倣品が製作されていたようで、「堺更紗」という言葉が今に伝わっています。しかし、その製作の実態を記録した史料は見当たらず、堺更紗がどのような染めものであったのか、いつ頃どこで誰が作っていたのか等、詳細はわかっていません。堺更紗は、堺製の更紗というような厳密な意味を持つ言葉ではなく、異国的な文様を染めた和更紗の総称とも考えられます。

和更紗の異国的な文様には、インド更紗だけではなく、中国やヨーロッパなど、さまざまな異国のイメージが取り入れられています。舶来品に触発された和更紗のデザインからは、生活を楽しむ庶民の旺盛な活力が伝わってくるようです。

本展では、堺更紗について考える前提として、まずは和更紗の文様に表れた異国趣味に注目し、日本独特の更紗のおもしろさを見てみました。（宇野）

【関連行事】

◆講演会

日本オリジナルな更紗—江戸時代のファッション—

日時：4月26日（日）午後2時～3時30分

講師：熊谷博人氏（装幀家）

◆展示品解説

日時：5月17日（日）午後2時～2時30分

講師：当館学芸員

【主な展示品】\*名称・年代・所蔵

◆第1章 更紗の到来

南蛮屏風（重要美術品） 17世紀 当館蔵

世界図屏風（堺市指定有形文化財）

17世紀 個人蔵

◆第2章 更紗メイド・イン・ジャパン

職人尽図屏風 18世紀 当館蔵

佐羅紗便覧 安永7年（1778）奥付 個人蔵  
町奉行所手鑑 元禄17年（1704） 妙國寺蔵  
励乃魁（界府繁栄家他国取引鑑）

安政2年（1855） 個人蔵  
更紗見本帳（山中権十郎編） 19世紀 個人蔵  
白茶地縞に小花文様更紗（「天保二」墨書）

19世紀 個人蔵

藍地草花文様更紗（間着） 19世紀 個人蔵

草花文様更紗（座布団） 19世紀 当館蔵

唐花文様更紗（夜着） 19世紀 当館蔵

大坂名所文様更紗（風呂敷） 19世紀 当館蔵

◆第3章 異国趣味のデザイン

天仙送子図更紗（布団） 19世紀 当館蔵

天仙送子図（蘇州版画）

清・18世紀 神戸市立博物館蔵

唐人物図更紗（布団） 19世紀 当館蔵

赤地唐風景図更紗 19世紀 個人蔵

赤地港風景図更紗 19世紀 個人蔵

赤地鳳凰唐草祇園山鉾文様更紗

19世紀 神戸市立博物館蔵

赤地花入り段更紗 19世紀 個人蔵

《展示品より》



唐人物図更紗（布団） 19世紀 当館蔵

## 企画展 昭和へタイムトリップ —吉田初三郎のパノラマ世界—

平成27年5月30日（土）～7月12日（日）

開館35周年を迎える堺市博物館は、優れた館藏品コレクションを収蔵します。パノラマの手法で近代の景観を描いた吉田初三郎のパノラマ地図のコレクションは、過去にも特別展で公開され多くの観覧者を魅了しました。

平成26年は吉田初三郎生誕130年、平成27年は没後60年にあたりました。昨年今年と各地で吉田初三郎のパノラマ地図展が開催されていました。当館においても館蔵コレクションを新しい角度から見ることによって、企画展を開催いたしました。

昭和へタイムトリップをするという視点で今回は、企画・開催しました。昭和の景観を独特の手法で描いた吉田初三郎のパノラマ世界は、昭和時代には懐かしく、平成生まれに新鮮に映ります。不思議で懐かしい地図の世界をお楽しみいただきました。また、描かれた町には台風や大火からたくましく復興をしつつある途上の様子を記録したものもあります、21世紀に生きるわれわれへのメッセージとして捉え展示しました。（矢内）

### 【主な展示作品】（いずれも当館蔵）

富士身延鉄道沿線名所鳥瞰図	原画		
		昭和3（1928）年	1枚
筑波山神社を中心とせる名所図絵	原画		
		昭和時代初期	1枚
丹那トンネル開通之熱海鳥瞰図	原画		
		昭和9（1934）年	1枚
全国名所鳥瞰図展覧会ポスター	原画		
		昭和8（1933）年	1枚
神武天皇御聖蹟図	原画	昭和14（1939）年	1枚
料亭水月を中心とせる日田案内図	原画		
		昭和時代初期	1枚
堺市鳥瞰図	原画	昭和10（1935）年	1枚
函館市図	原画	昭和11（1936）年	1枚
新潟全県史跡観光鳥瞰図	原画		
		昭和時代戦後	1枚
大軌・参急電鉄ポスター	印刷		
		昭和9（1934）年	1枚
稚内市鳥瞰図	原画	昭和時代戦後	1枚
遠軽町鳥瞰図	原画	昭和時代戦後	1枚
国立公園支笏洞爺湖	原画	昭和時代戦後	1枚

国立公園大雪山	原画	昭和時代戦後	1枚
国立公園阿寒	原画	昭和時代戦後	1枚
装幀原画		昭和時代	10枚1括
釜石市街鳥瞰図	印刷	昭和11（1936）年	1枚
宮城県観光案内書	印刷	昭和時代	18枚1括
愛知県観光案内書	印刷	昭和4（1929）年	6枚1括

関連行事として以下の催しを実施しました。

### 【関連行事】（いずれも当館学芸員による）

#### ◆展示品解説

日時：5月31日（日）午後2時～2時30分

会場：企画展会場

#### ◆学芸講座

日時：6月28日（日）午後2時～3時30分

会場：博物館ホール・企画展会場



会場風景

## 企画展 むかしの夏、堺の夏

平成27年7月18日(土)～8月30日(日)

前期：7月18日(土)～8月9日(日) / 後期：8月11日(火)～8月30日(日)

本展は小中学生を主な対象とし、父母や祖父母の世代とむかしのことについて語り合えるきっかけとなるよう、堺のむかしの夏に関する資料(住吉祭礼図屏風、堺の寺に伝わった仏画、太平洋戦争関係資料等)を展示するとともに、関連行事を行うことを目的として開催しました。

堺の夏の一大行事、住吉祭は何百年も続いており、江戸時代には住吉祭を描いた屏風が制作されました。むかしも大いに盛り上がったお祭りのようすが屏風の絵からわかります。

夏といえばお盆休み。お盆には、堺だけではなく日本各地のお寺で先祖の霊がおまつりされます。本展では、「閻魔王図」(堺市・長泉寺蔵、重要文化財、前期に展示)や「阿弥陀三尊来迎図」(堺市・専称寺蔵、大阪府指定文化財、後期に展示)など、堺のお寺に伝わった仏画を展示し、仏さまの教えを描いた絵から、むかしの人たちが考えた死後の世界の様子を想像してみました。

平成27年は、太平洋戦争が終わってから70年目の節目の年でした。昭和20年7月10日、大空襲を受けて堺の町は焼け、そのおよそ一か月後、8月15日に戦争は終わりました。戦争の終結に重要な役割を果たしたのが、堺出身の当時の首相・鈴木貫太郎(1868～1948)でした。戦時中の堺の町を描いたスケッチ、当時の堺の小学生による図画・習字・作文、鈴木貫太郎ゆかりの資料等を展示し、戦争について考えてみました。(宇野)

### 【関連行事】

#### ◆講談会

納涼! 講談会

～子どもも大人も笑って、ちょっとゾクッ!

日時：8月2日(日) 午後4時～5時(開場:午後3時)

※抹茶体験(有料)・蚊帳体験あり

演題：「千利休と戦国大名のお茶」

「怪談・野良猫の恩返し」

出演：講談師 旭堂南海氏

会場：堺市茶室 仲庵

対象：小中学生(要保護者同伴)

#### ◆講演会

昭和20年の夏・8月15日—終戦と鈴木貫太郎—

日時：8月15日(土) 午後2時～3時30分

講師：白神典之(当館学芸課長)

#### ◆展示品解説

日時：8月22日(土) 午後2時～2時30分

講師：当館学芸員

### 【主な展示品】\*名称・年代・所蔵

#### ◆住吉祭

住吉祭礼・賀茂競馬図屏風 17世紀 当館蔵

住吉祭礼図屏風 18世紀 当館蔵

住吉名勝図会 寛政6年(1794)刊 当館蔵

#### ◆お盆と「あの世」

十三仏図 15世紀 圓龍寺蔵

星曼荼羅図(大阪府指定文化財)

14世紀 高倉寺宝積院蔵

閻魔王図(重要文化財) 14世紀 長泉寺蔵

阿弥陀三尊来迎図(大阪府指定文化財)

14世紀 専称寺蔵

#### ◆戦争の記憶

岸谷勢蔵画 堺市第一次疎開地区記録

昭和19年(1944)7月 当館蔵

岸谷勢蔵画 昭和二十年七月十日戦災の図

昭和20年(1945)7月11日 当館蔵

鈴木貫太郎述『終戦の表情』(労働文化社)

昭和21年(1946)8月1日刊 個人蔵

鈴木貫太郎筆「為萬世開太平」

昭和20年(1945)以降 個人蔵

堺の小学生の図画・習字・作文

昭和16～20年(1941～45)

堺市立平和と人権資料館蔵



「堺の小学生の図画・習字」展示風景

## 企画展 “イタスケ古墳を護ろう”—破壊から保存、そして世界文化遺産へ—

平成27年9月5日（土）～10月18日（日）

いたすけ古墳は、昭和30年（1955）11月14日に史跡に仮指定され、翌31年（1956）5月15日付で国史跡になりました。そして、平成27年はいたすけ古墳の保存運動から60年という節目の年にあたります。

第2次大戦後の混乱・荒廃した時代に「戦後復興」という大号令のもとに、開発行為により多くの遺跡や古墳が破壊されました。百舌鳥古墳群内でも七観山古墳、カトンボ山古墳、大塚山古墳、城ノ山古墳など多くの古墳が破壊され、地上から姿を消しました。なお、一部の古墳に関しては、森浩一氏や宮川涉氏などにより献身的な発掘調査が行われ、かろうじて記録と出土品が残されましたが、古墳の多くは記録も残されないままに破壊されました。

いたすけ古墳も住宅地開発のため、昭和30年（1955）9月ごろには周濠に架橋されました。これを知った森浩一氏や宮川涉氏などの考古学研究者などを中心として“イタスケ古墳を護ろう！”をスローガンに古墳を開発・破壊から守ろうと立ち上がりました。そして、それは大きなうねりとなり全国へ広がりました。その運動は新聞社などマスコミも大々的に取り上げ、その結果堺市が古墳と橋を開発会社より買い取り、11月14日には国指定史跡として仮指定され保存されることになりました。

当時は「保存運動」という言葉すらなく、現代の文化財保護活動につながる先駆的運動として高く評価され、また後の市民活動にも大きな影響を与えました。そして、これを契機として「古墳は護るべきものである」という意識が広まりました。

現在、大阪府・堺市・羽曳野市・藤井寺市は「百舌鳥・古市古墳群」の世界文化遺産登録をめざしており、平成22年（2010）には世界遺産暫定一覧表に記載されました。この「いたすけ古墳」保存運動は、世界文化遺産登録へとつながる出発点であると言えるのではないのでしょうか。

今回の展示では、①百舌鳥古墳群中で破壊された古墳の資料、②いたすけ古墳の保存運動に関する資料を中心として構成し、③百舌鳥古墳群の保存・加えて世界文化遺産登録の活動を紹介しました。なかでも、現在いたすけ古墳周濠の水質浄化に積極的に取り組んでいる大阪府立堺工科高校エコデザイン部による活動を紹介し、新たな保存活動が現在でも行われていることを示しました。

今回の展示主題であるいたすけ古墳の保存運動の展示をきっかけにして、「百舌鳥古墳群を守り、伝える」意義を伝えることができたと思います。（續）

\*古墳の表記に関しては、史跡指定前は「イタスケ古墳」とカタカナ表記されることが多く、史跡指定後は「いたすけ古墳」に統一されました。60年前の雰囲気伝えるために、タイトルをカタカナ表記のものとしました。

### 【主な展示品】

#### ◆個人所蔵品（30点）

「堺市いたすけ古墳を護る会」チラシ・いたすけ古墳関係新聞記事スクラックブック・七観山古墳出土埴輪など



いたすけ古墳保存運動関係スクラックブック（個人蔵）

#### ◆七観山古墳出土品（京都大学総合博物館12点）

革製衝角付冑（三尾鉄含）・馬具（木心鉄板張輪鍔）・馬具（三環輪）・鉄鍬・鉄槍・形象埴輪（盾形、冑形、鞍形、草摺形）・鱗付円筒埴輪

#### ◆城ノ山古墳出土品

（同志社大学歴史資料館19点・堺市博物館8件）  
鉄鍬・鉄鉾・支刀付鉾・鉄剣・馬具（鞍）・刀子、帯金具垂れ飾り・勾玉・管玉・ガラス棒・掛甲・鏡片など

#### ◆カトンボ山古墳出土品（当館6点）

子持勾玉・勾玉・滑石製白玉・鍛造鉄斧など

#### ◆いたすけ古墳出土品（堺市文化財課1点）

衝角付冑型埴輪（堺市指定有形文化財）

### 【関連行事】

#### ◆講演会（2回開催）

①日時：9月12日（土）午後2時～4時

「いたすけ古墳周濠の浄化への取り組み」

大阪府立堺工科高校エコデザイン部

「いたすけ古墳を護った市民のこころ

—保存運動から60年—

宮川涉氏（奈良県立橿原考古学研究所客員研究員）

②日時：10月4日（日）午後2時～3時30分

「いたすけ古墳の保存運動とその後の古墳研究」

新納泉氏（岡山大学大学院教授）

#### ◆学芸講座（展示品解説含む）

日時：10月2日（金）午後2時～3時30分

#### ◆展示品解説

日時：9月6日（日）午後2時～2時30分

私たちは、朝起きてから夜眠るまでいろいろな道具を使って生活しています。そのような普段の暮らしを便利で豊かなものにするために、道具はどんどん進歩してきました。時の流れとともにずいぶん変わり、姿を消したのも数多くあります。

本展は、従来スポット展示「クイズ!?むかしの道具」として開催してきたものを企画展としてリニューアルしたもので、20世紀を中心とする時代に使われていた道具の数々をご覧いただきました。これらの道具のなかには、最近まで使っていたものや、懐かしいもの、どんな時に使うかわからなくなってきたものなど、いろいろあります。そこから、昔の人の工夫や知恵、道具が進歩して便利になっていく様子、道具がもたらした生活の移り変わりなど、暮らしの上での道具の大切さも学んでいただきました。

なお、開催期間中には関連学校関係行事として、企画展コーナーに昔の道具体験コーナーを、地階博物館ホールには昔の遊び体験コーナー等を設置し、市内の小学校3年生の団体見学を対象に、昔の道具体験会（平成28年1月26日（火）～3月4日（金）の火曜日から金曜日の平日限定）を開催し、石臼の体験、むかしの遊びなどを学習していただき、総数で43校の参加がありました。（倉橋）

#### 【章立てと主要展示品リスト】

- A、衣類にかかわる道具  
トンビ、さしこ、他
  - B、余暇にかかわる道具  
蓄音機、テープレコーダー、他
  - C、仕事にかかわる道具  
龍吐水、銭箱、他
  - D、住居にかかわる道具  
炭火アイロン、足踏みミシン、他
  - E、食事にかかわる道具  
七輪、箱膳、他
  - F、農業に使う農具  
足踏み脱穀機、唐箕、他
- 以上、約70点

#### 【関連事業】

##### ◆展示品解説

日時：2月6日（土）午後2時～2時30分

会場：博物館ホール・企画展会場

講師：当館学芸員



蓄音機

「発明王」エジソンが作った音を録音する筒型の道具を、のちにエミール・ベルリナーという人がレコード盤という円盤に改めて広がった音楽を聴くための道具です。現在のICプレーヤーのご先祖様ですが、電気・電池は使わず、ゼンマイなどで動かしました。



手回し式計算機

機械式計算機ともいい、歯車などの機械要素の組み合わせで、加減乗除の演算を行うことができます。19世紀後半に商品化されて普及し、20世紀後半頃まで盛んに用いられましたが、コンピューターと電子卓上計算機の登場で、すたれていきました。

日本では、大正時代に大本寅治郎が開発した「タイガー計算機」が日本における手回し式計算機の代名詞となり、1968年頃に生産・出荷のピークを迎えましたが、1970年前後から一気に生産・出荷の規模が落ちていき、コンピュータや電子卓上計算機にとってかわられました。

# 企画展 和田一族奮戦記—中世を生き抜いた人々—

平成28年3月12日(土)～5月29日(日)

本展では、和泉国大鳥郡和田(みきた)庄を本拠地にした武士・和田(みきた)氏に伝来した「和田文書」(個人蔵、京都府立山城郷土資料館寄託)をもとに、和田氏の活躍した中世の和泉・南河内地域の姿を紹介しました。

和田文書は、鎌倉時代から戦国時代にかけて堺の有力な武士であった和田氏の活躍を今日に伝えています。本展では、和田庄をはじめとして、和田氏が勢力範囲とした地域の南北朝期から戦国期にかけての様子を中心にご紹介しました。

和田氏は南北朝時代、楠木氏と深いかかわりを持ち、南朝方としてこの地域で活躍していました。和田文書は、南北朝時代の堺市域の動向を見るうえでもたいへん貴重な資料です。着到状や手負注文をはじめとするこの時期の書状類は、この時期の和泉国内での戦闘の様子を具体的に教えてくれます。

南北朝時代と並んで、この地域の動向について詳しい材料を提供してくれるのが、戦国時代の和泉守護細川氏から発給された書状類です。応仁元(1467)年に始まった応仁・文明の乱は、京都での戦闘が終結したのちも、戦乱が畿内各地に波及していきました。和田氏は、和泉守護細川氏のもとで幾多の戦闘に参加しています。

このほか本展では、鎌倉時代の「沙弥性蓮処分状」など、和田庄の景観や池などの地名がわかる資料をもとに、現在残っているため池などの地名やその位置についても調査しました。調査にあたっては、美木多地域歴史資料調査会の皆様のご協力をいただき、その結果は、写真パネルや昭和36(1961)年の地図を用いてご紹介しました。

なお、本展終了後、和田文書はからあらたに当館へ寄託先を変更いただくこととなりました。本文書の詳細については、本号掲載の「新たに寄託された古文書について—史料紹介 和泉国大鳥郡和田文書(一)—」をごらんください。(渋谷)

## 【関連行事】

### ◆展示品解説

日時：3月19日(土)・5月15日(日)

午後2時～2時30分

会場：企画展会場

講師：当館学芸員

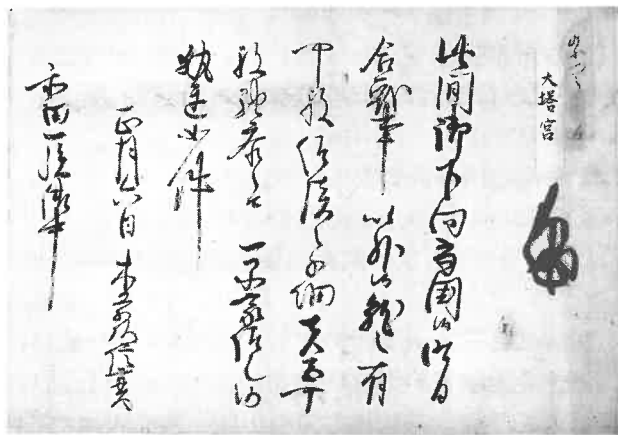
### ◆学芸講座

日時：4月24日(日) 午後2時～3時30分

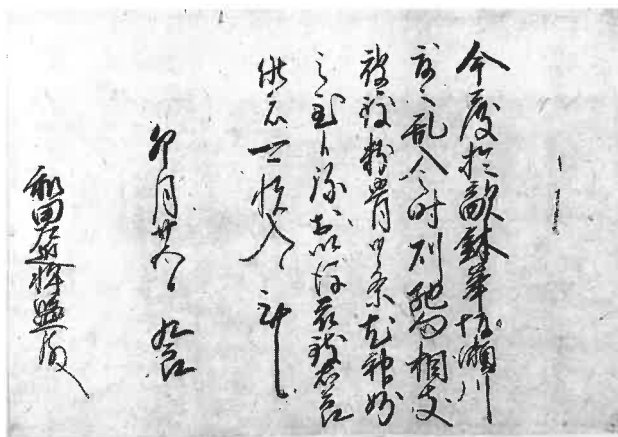
会場：博物館ホール・企画展会場

講師：当館学芸員

### 《展示品より》



「北畠親房袖判御教書」 正平3(1348)年正月6日



「細川九郎感状」 応仁3(1469)年4月25日



会場風景

## 長山古墳・ニサンザイ古墳発掘調査速報展 平成28年3月12日(土)～5月29日(日)

平成24～26年度に堺市文化財課が実施した発掘調査で出土した埴輪などを古代常設展示コーナーで展示しました。

主催／文化財課

### 【主な展示品】

- ・長山古墳—車輪石・円筒埴輪・形象埴輪など
- ・ニサンザイ古墳—円筒埴輪・朝顔形埴輪

### 【関連事業】

- ・報告会(博物館連続講座)文化財課職員

①4月29日(水・祝)午後2時～3時30分

「長山古墳の調査成果について」

②5月6日(水・祝)午後2時～3時30分

「ニサンザイ古墳の調査成果について」

世界文化遺産登録をめざしている百舌鳥古墳群に関連する展示資料の充実化を図るために、宮内庁書陵部のご理解、ご協力により百舌鳥陵墓参考地(御廟山古墳)の墳丘から出土した埴輪(円筒埴輪2点・朝顔形埴輪1点・蓋形埴輪1点)を借用しました。今後も資料を充実させていきたいと考えています。(續)



## 常設展示リニューアル

平成27年度には、前年度に行った古代コーナーのリニューアルに引き続き、中世コーナーの小規模なりニューアルを以下の①②のとおり行った。

### ①バナーの新設

平成14年度に行われた常設展示リニューアル(順路変更)によって、古代コーナーの展示物の背景に、江戸時代の復元町屋の裏側が見える、という状況が生じてしまい、時代順の展示の流れに違和感のあるまま現在に至っている。その対策として町屋の裏側を隠すためのバナー4枚を設置した。バナーには古代・中世・近世・近現代の各時代を代表する堺の文化財をプリントし、堺に長い歴史があり、その中で生まれた数々の文化財が現存することを視覚的に理解してもらえるようにした。

### ②大阪府指定有形文化財「慶長大火縄銃」の展示方法の変更

変更前は、壁面ケースに他のさまざまな資料とともに展示していたが、専用の展示ケースを新設し、展示場の中央に単独で展示しなおした。変更前は、日本一の長さ(3メートル)がそれほど目立たなかったが、変更後はより強いインパクトを鑑賞者に与えるようになり、大火縄銃の製作に携わった堺の鉄砲鍛冶の技術力についての関心も深まったように見受けられる。(宇野)

